

JOS 編集委員会からのお知らせ

(公社) 日本油化学会英文誌：JOURNAL OF OLEO SCIENCE (JOS) が DOAJ に掲載されました !!

この度日本油化学会 (JOCS) が発行する英文誌 JOURNAL OF OLEO SCIENCE (JOS) が、2021年4月6日に DOAJ (Directory of Open Access Journals) に掲載されました !!

<https://doaj.org/> にアクセスして、JOURNAL OF OLEO SCIENCE (JOS) と検索してみてください。または <https://doaj.org/toc/1347-3352> で出てきます。

DOAJ は国際的に認知されたオープン・アクセス誌のオンライン・ディレクトリ・サービスで、基準を満たす高品質の学術ジャーナル及びその記事のメタデータを収録しています。数年前に、ハゲタカ・ジャーナル (predatory journal) の存在が批判を浴びた際には、DOAJ は「ハゲタカではない OA ジャーナル」を証明するホワイトリストの一角を占め、その存在を広く知られるようになりました。ご存知の通り、非営利団体で非常に高い公益性を備えた DOAJ は、日本国内でも国公立・私立大学等の大学で論文投稿先のチェック・リストとして推奨されています。つまり、DOAJ への掲載は、学術的に価値の高いことの証と言えるでしょう。日本は世界の潮流から遅れており、日本のジャーナルで DOAJ に掲載されたジャーナルはまだ 74 誌にすぎません (2021.4.27 現在。JOS は 73 番目に掲載)。

日本でも、日本学術振興会は科研費の助成を受けた研究はオープン・アクセスで論文を発表するようという方針を 2017 年 3 月に発表していますが、既に欧州では 2021 年 1 月 1 日から公的な助成・支援を受けた研究成果の論文に即時オープン・アクセス公開が義務付けられました。そんな背景もあって、日本でも国際的に名の通った理工医系ジャーナルは、一斉に DOAJ 掲載に向けて走り始めています。

しかし、DOAJ 掲載のハードルは高く、JOURNAL OF OLEO SCIENCE (JOS) も国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) のジャーナル・コンサルティングを受けながら半年以上かかって、この度の掲載にこぎつきました。この場をお借りしてご協力いただいた JST の皆様に深く感謝申し上げます。無事掲載に至りましたことは、先人や皆様方が真摯に油化学に向き合ってこられたことの成果であり、今後の若い研究者の飛躍や JOCS 発展の礎となるものと確信しております。

引き続き JOS 発行事業へのご協力の程、宜しくお願い致します。

Journal of Oleo Science, Editor-in-Chief
柴田 攻

補足：オープン・アクセス

インターネット上に論文等を無料公開し、二次的利用の範囲に関するライセンス情報を明記することで、誰もが障壁なくアクセスできることをいいます (科学技術情報発信・流通総合システム利用規約第 2 条)。「ライセンス情報」とは、科学技術刊行物の記事に付されている利用条件を表す情報 (クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンス等) をいい (同第 2 条)、JOS では自由度の高い CCBY と CCBY-SA の何れかを著者が選択することとしました。内容につきましては、クリエイティブ・コモンズ・ジャパンの HP (<https://creativecommons.jp/licenses/>) をご参照ください。